

ホームページへの掲載	
9月26日	掲載

## 岐阜県立関高等学校

学校長 平井 学

学校住所 関市桜ヶ丘2-1-1

電話(0575)22-5688

1 会議の名称 岐阜県立関高等学校 学校評議員会 (第1回)

2 会議の構成

委員

神谷 泰久

本校同窓会副会長

北村 隆幸

せき・まちづくり NPO ぶうめらん代表理事

直井 貴史

関商工会議所事務局長

平田 久美子

平田建設株式会社取締役

福田 克則

福田刃物工業株式会社代表取締役

(五十音順)

学校側

平井 学

校長

村瀬 英昭

事務部長

總山 俊行

教頭

木澤 朗

教務主任

内田 匡俊

生徒指導主事

古川 真哉

進路指導主事

林 直樹

研究推進部長

國枝 英俊

特活部長

安田 雅喜

P T A 会長

藤田 洋平

岐阜大学教職大学院生

3 会議の目的

学校運営や教育活動等の現状について、地域社会や学識経験者、保護者等に情報発信するとともに、意見や要望を幅広く聞き、それを反映できる開かれた活力ある学校づくりを推進する。

4 会議の開催

平成30年9月11日(火) 15:00~17:00 校長室及び各教室  
委員5人と学校側10人が出席

5 会議の概要

初めに、教頭より本校学校経営方針等について、説明が行われた。

今年度の教育指導の重点目標は、「勉強する関高生」「マナーのよい関高生」「汗を流す関高生」「グローバルな関高生」であり、この4本の柱を踏まえて、以下の4つのテーマについて学校評議員の意見を伺った。

### (1) テーマ 来年度からの単位制について

来年度から実施される単位制について教務主任から、以下の3点が説明された。

1. 「単位制」という言葉が独り歩きしないよう丁寧に中学校への説明を行っていること。
2. 関高百年の伝統をベースとして、国際化に対応した SGH 活動、生徒の多様化に対応する単位制の3段重ねを総称して「関高型単位制」と呼ぶこと。
3. 自分の将来設計と照らし合わせた選択ができるよう、3年次に進路に応じた選択科目を複数設けること。

意見1 単位制はとても良い。3年次にたくさんの選択肢が設けられていることは魅力的だ。

意見2 単位制という言葉が独り歩きして「受験に特化した」というようにPRすることは逆効果になる。単位制にすることで、生徒たちが「自分たちの選択肢には幅があり、受け皿として、先生方や外部講師がしっかりとバックアップしてくれるのだ」と感じられることが大切だと思う。

→ 単位制によって、生徒たちの進路をよりきめ細かやかに見てあげられるようにしていきたいと考えており、その点を中学校にはPRしている。

意見3 単位制によって先生方のスキルアップなどが必要となり、先生方の負担にならないか。どれだけよい制度でも質が低ければ意味がないのではないか。

→ 現有の教員だけでは難しいため、教員数の確保をお願いしている。教員一人一人のスキルは優秀であり、これまでに培った指導の財産などを上手く組み替える形で教員のさらなるスキルアップを進めていきたい。また、講座開講にあたっての教室などの施設整備も検討中である。

意見4 これまで以上に地域外の中学校にも学校紹介に赴いていると話されたが、外部の地域から実際に入学している生徒はどのくらいいるのか。

→ 美濃加茂市から本校に入学する生徒が増えている。加茂郡や岐阜地区から登校する生徒もいる。SGHの取り組みなどに魅力を感じて志望した生徒も多い。

## (2) テーマ キャリア教育について

意見1 生徒自身が自らの進路やキャリアを設計できるような時間は設けてあるのか。

→ 1年次はLHRの指導を通して、文理選択を中心に自己理解の時間を設けている。2年次は自身の性格や興味関心についての自己理解を深めると同時に、オープンキャンパスや職場体験での参加を促している。職業レディネステスト(VRT)も活用している。

意見2 高校生の時期に自らの進路について考えることで、地元に戻るという選択肢も生まれると思う。

→ SGH活動において1年生は地元、2年生は世界をフィールドとして取り組んでいる。研究内容などを見ると、生徒たちの地元愛が高まっていると感じる。また活動が評価され、A0入試で大学の観光学科などに入学した生徒もいる。

## (3) テーマ SGH活動などにおける外部との連携について

意見1 コミュニティスクールという言葉もあるが、地域団体や企業とどのようにつながるかが大切だと思う。今は個人的なつながりが多いが、今後は組織化していくための仕組みづくりが必要だと思う。

→ SGH活動は1期3年であり、来年で6年目を迎える。来年1年は予算措置も行われるが、SGHを辞めるわけにはいかない。今後、継続するためにも外部との連携関係が重要であり、今年度は特に地域との連携を図っている。市や企業、大学など、継続して取り組めるような関係づくりを行いたいと思っている。

金沢大学には毎年、本校の3年生を対象に、学部別の模擬講義を実施していただい

いる。また、学生にも講義させてほしいという大学側からの声もあり、年々連携が深まっていると感じる。

#### (4) テーマ 生徒の様子について

意見 1 参観の際、廊下ですれ違う生徒が自然な形で挨拶をしてくれ非常に驚いた。挨拶は社会で生活するうえでの基本である。進学校であってもしっかりと挨拶ができることは素晴らしい。

→ このように評価していただいたことを生徒たちにも伝えれば喜ぶと思う。良い刺激としたい。

意見 2 発達障害を抱えている生徒に対して学校としてどのようにフォローしているか。

→ 教育相談部、養護教諭、生徒指導部、学年会での連携を図り、共通理解のもと、生徒一人一人を見守る体制を構築していきたい。中学校からも生徒の情報は受けており、中学校との連携も密にもしていく。先生方の意識も高め、生徒の困り感を無くすための手段を検討し、どのような生徒でも受け入れられるようにしたい。

特別活動部長からは、学校行事や部活動、ボランティア活動などについて、以下の3点が述べられた。

1. 生徒はとても熱心に取り組んでいること。
2. 部活動加入率も例年（85%）を上回り今年は88%であったこと。
3. 挨拶などの礼儀指導も行われていること。

#### (5) テーマ その他

意見 1 雨天時の送迎については保護者にも問題があると思う。根気強い呼びかけが必要である。

意見 2 自転車事故などの場合、生徒は自分が悪いと処理してしまう。事故にあった際の対応について徹底した指導を行ってほしい。

#### 6 会議のまとめ

今回の会議は、本校教育指導の重点目標の「勉強する関高生」「マナーのよい関高生」「汗を流す関高生」「グローバルな関高生」に沿って、本校の今年度の取り組みについての概要を確認していただきながら、各評議員のご意見を伺い、それについて、核担当者がその現状を説明する形で会議を進行した。

特に、関高校の今後の学校運営の方向性として、進学型単位制高校への移行について、肯定的な評価いただきました。さらにその先の将来的な関高校へのあり方についても、今後、ご提言いただけるようお願いして、会議を終えた。